

筆者タッド・ラーソン氏（42歳）は歴史学の大学教授で世界最大のバンブーロッド・コミュニティ「The Classic Fly Rod Forum」管理人。本稿は本誌連載のための書き下ろしである。（編）

「歴史上、もっとも素晴らしいバンブーロッドが作られているのは現代だ。現代こそがバンブーロッドビルディングの黄金期だ」  
ボブ・クレイはきっぱり宣言する。「現代には様々な技術が蓄積されているばかりでなく、コンピュータ、完成部品、接着剤など、昔は手にできなかったあらゆるものが使用できる。良いロッドを作ろうとしたときは昔のほうが難しかったに違いない。そして何よりも、良いロッドを評価してくれるお客様が、現代にはたくさんいる。」

「フライフィッシングは18世紀後半から19世紀にかけて、スコットランドのスペイ川で発展した独特なフライフィッシングの形態である。スペイキャストイングの特徴は、非常に長い（10、18フィート）専用タックルのダブルハンドロッドと、キャストイング・テクニクにある。スペイキャストイングの要は、釣り人の正面にできるだけラインをためることにある（一般的なロールキャストと類似している）。」

### 北米のスペイフィッシング

スペイキャストイングは、スコットランドからまずカナダやアメリカの北米大西洋沿岸に伝わった。北米大西洋沿岸のアトランティックサーモン釣りに飛距離が欠かせず、その結果パワフルな長めのスペイロッドが広く普及す

ることとなった。その後西側へと広がっていき、太平洋沿岸の河川や大きな湖沼におけるサーモンやステイルヘッド・フィッシングの釣り人に支持された。今やスペイキャストイングを習得しようとする釣り人は、毎年増加の一途をたどっており、フレッシュ・ウオーターからソルト・ウオーター・フライフィッシングにまで、スペイキャストイングを適用しはじめています。

### フライフィッシングとの出会い

カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州のキシピオックス町にボブ・クレイは20年前から暮らしている。バンブー素材の可能性を極限まできわめたクレイは、世界随一のバンブー・スペイロッド製作者だ。その姿は、まるでバンブーロッドしか存在しなかった時代へとスペイキャストイングの世界を持ってい

こうとしているようだ。クレイの生い立ちは興味深い。1950年、イタリアはアドリア海に面したトリステで、軍人だった英国人の父とイタリア人の母の間に生まれた。1952年、家族はカナダ・アルバータ州カルガリーに移住した。彼はそこで育ち、そしてフライフィッシングを学んだ。

### 腕利きのフィッシング・ガイド

ボブ・クレイがブリティッシュ・コロンビア州にやってきたのは1971年のことだ。ステイルヘッド釣りでの名を馳せた彼は、腕のいいフィッシングガイドとなった。1977年には完全に移住し、そこで妻となるキャシー（素晴らしいフライアングラーであり、スペイキャストでもある）に出会う。二人は1978年に結婚し、4人の子供を育てた。しかし彼のロッド作りはまだまだ先の話だ。「最初はファイバークラスのロッドで、次にグラファイトのロッドで釣りをしていた。しかしバンブーロッドの美しさはずっと気になっていた。バンブーロッドで釣りができる機会は必ずバンブーを使っていた。英国のダーモット・ウィルソンに注文を出して、クリフ・コンステールやペゾン・アンド・ミッチェルのバンブーロッドを購入した」



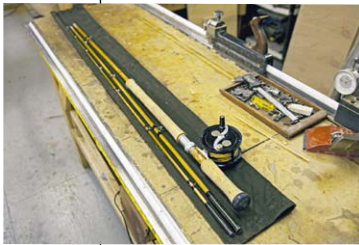
作業中のクレイ

「ホーナーはおもにハーディー社のバンブーロッドを使っていた。たしか古くから使っていた。しかしクレイは、ホーナーの使っていたバンブーロッドに惚れこんだ。」

「バンブーという素材はトラウト・ロッドにはとてもフィットしている。しかし普通のトラウト・ロッドでは、沿岸部から遡上するパワフルなステイルヘッドやサーモンには対抗できないこ



### Radical Bamboo Rod Builders ⑦



# Bob Clay

## ボブ・クレイ

text Todd E. Arai Larson  
タッド・ラーソン/シンシナティ州/ホワイトフィッシュ・プレス  
translation 永野竜樹  
ながのたつき/東京都

### ザ・キング・オブ・ザ・バンブー・スペイロッド

クレイはフィッシングガイドからロッドメーカーへと転身した男だ。「今までキャストイングのできないロッドビルダーに数多く会ってきた。ビックリだね。自分がキャストイングできないのに、一体どうやって自分のロッドを評価するんだろう。」

